

# 過去担当者と振り返る広報「東ちちぶ」



かつて東秩父村役場で広報編集発行に携わった4名の方にお話をお聞きしました。当手を振り返り、今後、村広報誌のあるべき姿について考えていただきましたので紹介します。

## 積み重ねに

### おどろく

高野 勉(安戸)

「500号」と聞いておどろくとともに、カラーページなどもあり、時の流れを感じていきます。

広報の担当としては、昭和55年後半から平成元年4月号までを担当しました。

当時はB4版縦の両面で、2カ月に1回出されてきました。

お知らせというより、記録を重視したものでした。

研修会などで他市町村の広報を目にすることもあり、上司に提案してB5版8ページ、毎月発行とさせていただきました。

広報委員会を設置してページも少しずつ増やし、基本2色刷りとして、今の姿に数年かけて作り上げた思い出がよみがえります。

より読んでいただくために、題字は昭和43年、当時の収入役・栗島繁三さんに書いていただいたものを、お許しいただき調整して、現在のレイアウトにいたしました。

この広報の経験は今も生きていて、ご指導、ご協力いただいた方々に、感謝しております。

## 今後に期待

関根 功(御堂)

平成元年5月号から平成6年4月号まで5年間担当しました。私は、どちらかというと数字には強いほうですが、文章を書くことは苦手で、かなり苦戦した記憶があります。最初は過去の村広報を参考にしたり、文章を少なくするために写真を大きくしたりと必死でした。毎月の広報原稿の締め切りには、いつもぎりぎり間に合わせ、何とか5年間、期日に発行することができました。

振り返ってみると、割合自由に自分の考えを広報に掲載していました。そのため、反省すべきことも多々ありますが、文章や写真として発行されているので、取り消すことができません。お許しいただきたいと思います。

今年の広報9月号(第499号)に、地域の夏まつりの写真が掲載されていました。少子高齢化で人口が減少するなか、参加者は少なくなっても地域を盛り上げようとする心意気が伝わってきました。これからも、私たちが元気で頑張れるよう、村の明るい話題を伝えてください。

## ふりかえって

嶋田 幸江(御堂)

平成6年5月号から平成12年4月号まで広報担当をさせていただきました。文もカメラも苦手な私でしたが、自分なりに目標を立ててすることにしました。それは世帯1人広報誌に協力してもらおうことを目指しました。

原稿書き、レイアウトをしていくと、朝になってしまったこともありました。その甲斐あってか、広報コンクールでは、3年連続特選となり、また、新聞にも掲載されたこともありました。特集を計画した時には、皆さまから資料をお借りしたり、快く取材に応じてもらったり、よく協力をしていただきました。

作成する中で、気をつけたのは表紙でした。表紙は「広報の顔」と思い、ちよつとこだわりの持ちで作成していました。245号から316号まで発刊することができました。これも村民の方々のおかげだと思います。

遅れましたが、500号おめでとうございます。これからも皆さまに愛され、喜ばれる広報を目指してください。

## 発500号に対して思うこと

坂本 年(白石)

広報「東ちちぶ」が発行500号を迎えるにあたり、過去の担当者の1人として当手を振り返ってみたいと思います。

私は平成12年5月から平成15年3月までの3年間、広報担当を務めさせていただきました。

当時はまだ、写真はフィルムカメラ、原稿執筆はワープロが主流であり、記録写真はうまく撮影できているか、記事はわかりやすい文章で、伝えたいことがしっかりと表現できているか、などいつも不安な気持ちであったことを思い出します。

現代では、村のホームページやタブレットで、村の情報を得ることはできますが、広報誌は当時の村の状況や出来事などから、時代の移り変わりとともに、村の歴史を学べるたいへん貴重な資料でもあると思います。

3年間、広報「東ちちぶ」の発行に関われたことを感謝するとともに、これからも、村民に親しまれる広報「東ちちぶ」であることを願います。

このたびはコメントをいただきありがとうございました。4名の皆さまをはじめ、多くの方々が築き上げてきた広報「東ちちぶ」を大切にするとともに、新しいことにも挑戦していきたいと思っております。